

2 若手 CMr 寄稿

日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社 マネジメント・コンサルティング部門 忠 快仁



非認知能力:CMrに求められる力

「CMとは(中略)建築プロジェクトの品質・工程・コストなどを当初の目的どおりに達成するための管理行為、及びそのための技術のことである。」修士1年の頃、授業で使用したテキスト「建築生産(市ヶ谷出版社)」の記述である。しっかりとアンダーラインが引かれていたものの、至極普遍的な記述に対し、学生時代に何を学び、どれだけのイメージを持つことができていたか、甚だ疑問である。

ではCMrとして働く上で学生時代から役立ったことは何か。それは“非認知能力”ではないかと考えている。

“非認知能力”とは、IQ(知能指数)のような数値化可能な“認知能力”に対し、数値化することが難しい内面的な能力として、よく幼児教育などで取り上げられる言葉である。意味するところは広いが、例えば自律性・協調性・忍耐力・実行力等がそれにあたる。振り返ると大学時代に建築学科で取り組んだ、研究・プロジェクト・課題等は、“非認知能力”の向上に一役買っていたと感じる。

CMrは正解のない問題に対応することも多く、ある事象に対して仮説を立て検証し、様々な可能性を模索する粘り強さも必要になる。また、多様な立場の方々とのやり取りや協業も欠かせない。そこに必要なのは知識や経験以上に、Manage:何とか対処し物事を前に進める力であり、CMrとして数値化できない“非認知能力”である。

建築学科には、研究もプロジェクトも課題も、主体的に物事を進めないと立ち行かない事象であふれている。学生時代はそのような環境に身を置き、興味の向くことに真摯に取り組むことが、CMrとしての“非認知能力”を伸ばすことに繋がるのではないだろうか。